

なじらね.jp 秋

平成 25 (2013) 年 9 月 30 日 (月) 発行 - 第 10 号 -

どっとじーピー



【発行人】「にいがた青年海外協力隊を育てる会」会長 平山 征夫 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of J.O.C.V. NIIGATA
【事務局】〒950-2012 新潟県新潟市西区小針台1-15 株式会社 アルファブライト 内
Tel. 025-234-1500, Fax. 025-234-1002, E-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL http://n-sojocv-najirane.com
【題 字】藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
【編集人】広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headlines -

- 【巻頭言】「なじらね.jp」第10号の発行に寄せて 1
- 【壱】平成25年度(第5回)総会の開催報告 2
- 【貳】SOS: ドミニカ共和国初の療育施設に和製玩具を贈ろう 2
- 【参】本県出身のJICAボランティア(JV & SV)が任国へ赴任!
(平成24年度4次隊, 平成25年度1次隊) 3
- 【四】本県出身JICAボランティアによる近況報告 4 - 7
- Information, 壮行会&慰労会, 広告, 編集後記 8

にいがた青年海外協力隊を育てる会

検索

公式ホームページ随時更新中!

【巻頭言】 「なじらね.jp」第10号の発行に寄せて
～アサンテサーナ/我が愛しのタンザニア～



にいがた青年海外協力隊を育てる会 理事
森田 敏明 (新潟県青年海外協力協会 会長)

青年海外協力隊が発足して再来年で50周年になります。私も新隊員の表敬訪問や壮行会に参加して自己紹介を聞くと、彼らはまだ生まれていない時代だったんだなと、協力隊の歴史が築かれている重みを感じています。協力隊活動10周年を記念して表題の映画が制作されたことは古いOVには忘れられない記憶があるし、かなりのインパクトがありましたよね。私も協力隊に入る前、入ってから、帰国後もこの映画を観る機会があり感動したことを今でも鮮明に覚えています。

この映画を監督した谷口千吉さんは、「アジアやアフリカの旅先で、近くに日本人が住んでいることを知ると、好奇心から訪ねておりました。会ってみると大抵まだ若い青年男女で、皆、青年海外協力隊員だった。およそ率の悪い仕事に身を投じている彼らを描いた映画を撮影し、日本にいる人々に観てもらいたいと思ってこの映画作りをやらせてもらった。」ということでした。

この映画の舞台はアフリカ・タンザニアでした。アサンテサーナは現地スワヒリ語で「どうもありがとう」という意味です。主人公は農業で働く坂田隊員、現地のカウンタパートと日本人ヒッピー青年らが登場し、特別出演で監督の奥さんであった八千草薫さんが現地駐在員の妻役で出演していました。協力隊員の活動、生活、心の葛藤や触れ合い、タンザニアの大自然などを情熱的にかつ情緒豊かに描いたものでした。この映画は全国に上映され、24万人を超える人々が鑑賞したものでした。

いよいよ発足50周年を迎え、記念映画制作に取り掛かっています。OVとして映画の完成が待ち遠しいし、これを機に100年未来に向かってこの事業が継続して行っていきたいと願っています。

【吉】 平成25年度（第5回）総会の開催報告

去る6月29日（土）15時より新潟会館において、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第5回総会を開催しました。議事の内容は、昨年度の活動報告及び決算報告、今年度の活動計画と予算を審議して頂きました。本年も募集説明会を兼ねて、帰国隊員に対するグローバルセミナーを開催する予定です。さらに、上越地域での青年海外協力隊周知を促進するための活動資金の補助もさせて頂くことになりました。そして引き続きライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチミスト等の経営者団体の例会でのアピールを実施し、県内企業の経営者に協力隊のことをもっと理解して頂けるように活動していきたいと思います。

第2部は当会会長の平山征夫氏（新潟国際情報大学学長、元新潟県知事）による「アベノミクスでデフレは克服できるか」と題し、講演をして頂きました。平山会長は県知事に就任されるまでは日本銀行で活躍された経済の専門家です。「デフレに効く経済政策はなし」と言われる中、「安倍総理が進める政策によって日本が甦るかどうかを、世界中の専門家が注目している。」など、世界経済の状況を大変分かりやすくお話し頂きました。

第3部は恒例のJICAとの共催で帰国隊員報告会を開催しました。今回は、シニア海外ボランティアOGの朝川雅子さん（平成21年度4次隊／インドネシア共和国／ジュエリーデザイン）と青年海外協力隊OBの宇津木隆さん（平成22年度4次隊／タンザニア共和国／理学療法士）の2人から現地での活動報告をして頂きました。

第4部は新潟県青年海外協力協会（OB・OG会）との共催で懇親会が開催されました。

最後に、引き続きライオンズクラブやロータリークラブの例会での講演をするにあたり、是非クラブをご紹介して頂きたいをお願いします（平山会長のスケジュールも調整させて頂きます）。また、広告協賛社を募集しています。1年間「なじらね.jp」とホームページに広告を掲載し、たったの1万円です。ご参考までホームページと「なじらね.jp」バックナンバーをご覧ください。今回の総会において新たに2社の協賛を内諾頂きました。

今後とも皆様何卒宜しくお願いします。

（文：横山 容司郎、写真：山田 規央）



2013/06/29



【式】 SOS：ドミニカ共和国初の療育施設に和製玩具を贈ろう！



今年の3月下旬より作業療法士としてドミニカ共和国の医療機関で活動中の青年海外協力隊員・林亜佑美さん（平成24年度4次隊・長岡市出身）からの要請を受け、中古和製玩具を募集中です。集まった玩具は、林さんが指導に関わる同国初の自閉症児等のための療育施設（現在建設中）で活用されます。

募集物品は、①おはじき（計4セット）、②積み木（計4セット）、③仕掛け玩具（計15個／電気製品不可）の3項目となっており、いずれも小型で軽量、状態の良いものとします（中古品で可）。

募集期間は、平成25年9月末までとしていましたが、要請数にまだまだ到達していないため、引き続き募集を継続しております。到達次第、HP上で募集終了をご案内いたします。

また、ご提供にあたっては、原則的に当会事務局まで電話・FAX・Eメールいずれかでの事前連絡をお願いしております。品名、個数、大きさや重さ、状態などをお知らせ下さい（写真添付歓迎）。事前連絡なく提供されても、受け付けられないことがあります。提供方法は、直接当会事務局にお持ち込み頂くか、送って頂くかになりますが、後者の場合、送料のご負担をお願い申し上げます。

詳しくは、当会HPをご確認頂くか、当会事務局（本紙1頁・題字下／担当 渡辺）までお問い合わせ下さい。

（文：山田 規央）

【参】 本県出身のJICAボランティアが任国へ赴任！
（平成24年度4次隊、平成25年度1次隊）

本県出身の青年海外協力隊(JV)・シニア海外ボランティア(SV)の平成24年度4次隊(H24-4)新隊員3人(JV 3人+SV 0人)が平成25年3月下旬に、平成25年度1次隊(H25-1)新隊員7人(JV 6人+SV 1人)が平成25年6月下旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は訓練所での約70日間の派遣前訓練終了後に本県に帰郷し、それぞれ3月21日、6月20日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない、両日共に当会からは横山事務局長が同伴致しました。これに併せ、直近に帰国していた本県出身隊員も同行し、帰国報告を行ないました。

また、毎回恒例の新隊員壮行会&帰国隊員慰労会を表敬訪問日の夜に新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)と共催で実施しました。当会としては、任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように取り組んでいきます。表敬訪問に参加した各隊員を紹介します。

新隊員 (H24-4)	任国	職種
JV ①古谷野 暢 さん ②林 亜佑美 さん ③和田 直 さん	ブルキナファソ ドミニカ共和国 ベナン共和国	食用作物・稲作栽培 作業療法士 村落開発普及員

①現地の人々と共に汗を流し完全燃焼してきます！

②自分にしかできない活動を探していきたいです。

③一人でも多くの人が世界で一人でも多くの人とつながって幸せを感じられるようにお手伝いしてきたいです。

帰国隊員 (H22-3, 1月帰国)

JV：井口幸子さん（パラグアイ共和国／看護師） 齋藤弘子さん（ラオス人民民主共和国／看護師）
山岸清香さん（フィジー共和国／体育）



新隊員 (H25-1)	任国	職種
JV ①石川 洸 さん ②塩田 哲平 さん ③鈴木 苑香 さん ④高野 光輝 さん ⑤富井 愛 さん ⑥長谷部 麻梨絵 さん SV ⑦西野 重雄 さん	セネガル共和国 東ティモール民主共和国 タイ王国 フィジー共和国 モンゴル国 セネガル共和国 エルサルバドル共和国	コミュニティー開発 コンピューター技師 理学療法士 環境教育 音楽 看護師 食品衛生

①セネガル人に信頼してもらい、日本を好きになってもらえるように頑張ります。

②日本と東ティモールのつなぎ役になれるよう、2年間活動してきます。

③日本とは異なる文化、習慣、環境でリハビリに携わることが楽しみです。

④自分と任地の生活環境向上に貢献していきたいと思っています。

⑤本当に必要な支援をみつけない。

⑥学校や地域で啓発活動を行ない、未然に防げる死亡を無くしていきたいです。

⑦一つでも現地で取り入れてもらえるように、今までの経験を活かして指導する。

帰国隊員 (H22-4, 3月帰国)

JV：佐藤源さん（セントルシア共和国／理学療法士）
関千鶴さん（ミクロネシア共和国／村落開発普及員）



地図と国旗は「世界地図・世界の国旗」HPより引用（<http://www.abysse.co.jp/world/index.html>）

（文：山田 規央／写真：横山 容司郎）

高橋 ゆき Ms. Yuki Takahashi , JV
(平成23年度4次隊 / タイ王国 / 日本語教師)



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

タイは私にとって第二の故郷です。任地であるナコンラチャシマでは信頼できる同僚の先生方や、かわいい教え子たちと出会うことができました。時々日本のことを懐かしく思うこともありますが、任地でも素敵な方たちに恵まれてアットホームな雰囲気です。

Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

タイはもうすでに開発途上国ではなく中進国と呼ばれていて、JICAの活動も教育や弱者支援の分野に限られています。任地であるナコンラチャシマはバンコクに次ぐ人口の多い町です。デパートもコンビニもカフェもバーもあり、生活はとても便利です。一方で、生徒一人ひとりと話していると、家庭によって貧富の差があると感じています。iPhoneやiPadを持っている生徒もいれば、毎日の生活に精一杯という人もいます。豊かな生活は目の前にあるけど、お金なしでは手に入らない、というのが今のタイの人のジレンマであると思います。

Q3; あなたはどんな活動をしていますか？

全校生徒4200人の大きな学校で約900人の生徒たちに日本語や日本文化を教える活動をしています。週に28コマ授業を受け持つ傍ら、放課後や長期休暇にエクストラクラスを開講したり、日本語コンテストに出場する生徒の指導や、タイ人日本語教師の授業をサポートしたりもします。

Q4; これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

一番印象に残っているのは、生徒たちの成長です。任地に赴任したばかりのころ、「あいうえお」から日本語を始めた生徒たちが、一年後には立派に日本人の来客を学校案内したり、日本語コンテストで他校の生徒たちと切磋琢磨したりする様子に感動しました。完全に親ばかならぬ、「先生ばか」ですね。辛かったことは、急な学校の行事などでしょっちゅう授業がつぶれたことです。でも、ここはタイだから「マイトン シリアス(シリアスにならないで)」柔軟にやり過しています。

Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

任期も残り7か月を切りました。引き続き生徒に日本語を教える以外にも、日本語能力試験やスピーチコンテスト、外国語キャンプなど、イベントが目白押しです。時間の許す限り、ここでできることをやり遂げたいと思っています。



Kingdom of Thailand

米澤 太一 Mr. Taichi Yonezawa , JV
(平成24年度3次隊／タンザニア連合共和国／理数科教師)



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

任地であるムクランガはタンザニアの東の沿岸部に位置し、気候は年間を通して暑いです。寒さが苦手なのでこちらの気候はとても過ごしやすく感じます。アフリカと聞くと乾いた大地が広がっているというイメージがあるかもしれませんが、任地のムクランガは緑豊かでヤシの木やパパイヤの木がたくさん生えておりトロピカルな雰囲気のある町です。



Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

タンザニアの人々は挨拶をととても大切にしています。道ですれ違う知らない人同士でも挨拶します。そのためか挨拶に関係した言葉がとても多くあります。「元気か？」等の挨拶をするためだけに電話することもしばしばあり、初めは驚かされましたが、人との距離が近く感じることで良い文化だなと感じています。



Q3; あなたはどんな活動をしていますか？

中等学校(日本の中学2年～高校2年相当)で物理を教えています。

Q4; これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

日本ではあまり聞いたことがありませんが、教師が学校に来ず教師不在となっている教室がよくあります。最近はそのような場合に生徒達が私の元へやってきて、代わりに物理の授業をやってくれと頼んでくれることが増え、嬉しく感じています。一方、たびたび日本について質問をされるのですが、語学力不足や知識不足で相手の質問に十分に答えられない時に辛いなあと感じます。



Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

普段はほとんど学校や自宅周辺にいるため、行動範囲を広げ、生徒が生活している村などを訪れて現地の生活の様子をもっと知りたいです。

United Republic of Tanzania

【さまざまな生活文化ルポ】第6弾

任国の“野球”



現地リポーター：齋藤 勇太, JV



平成24年度3次隊
エクアドル共和国
野球

Mucho gusto! (はじめまして) 日本から約15,000km離れた国、ガラパゴス諸島とバナナで有名な南米エクアドルにて野球指導をさせて頂いております。

エクアドルでは、「え？南米？サッカーでしょ？」の言葉を裏切ることなく、野球は一部の地域を除いてなかなかマイナーなスポーツです。主に野球が行われているのは、エクアドル全土の中でも私の任地であるグアヤキル(西側のコスタ地域)と、他数える程の県でしか行われていません。エクアドルには野球のプロリーグはなく、有料番組以外では日本のように野球の試合がテレビで放送されることはありません(大人が本気で行うリーグ戦はありますが、実力は高校野球県大会上位校くらい)。日本では有名な各都市の高校野球もあります。しかし、野球をやっている子ども達は日本の子どもに負けないくらい野球が大好きです。家族も日本の家族に負けないくらい、時にはやり過ぎだろと思うくらい大好きです。

野球が好きなことは素晴らしいこと。ですが、私が着任して一番初めに気になったことは、子どもも大人も野球道具を大切にしないことです。国が違えば文化や習慣も違う。日本のそれが全て正しいなんて思いません。けれども「道具がない、道具が欲しい」と言いながらも今ある道具を投げ捨てる子ども達を見て、日本人としてここに来たからには、まずはその点を伝えていきたいと強く思いました。道具を大切にするエクアドルの選手が日本の選手と試合をする、そんな夢も抱いています。⇒ブログ <http://sai.niiblo.jp/>



Republic of Ecuador

井口 幸子 Ms. Sachiko Iguchi, JV (OV)
(平成22年度3次隊 / パラグアイ共和国 / 看護師)



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

ブラジル人が開拓した、広大な大豆畑やとうもろこし畑、ひまわり畑が広がる街でした。遠くまで見渡すことができ、のんびりお茶をしながらゆっくりと流れるときを楽しめる場所でした。

Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

貧富の激しい地域でした。ブラジルからの移民が多く、大規模な農業によって富を得て大きな街になった地域でしたが、そんな富を求めて貧しいパラグアイ人が大勢いました。

Q3; あなたはどんな活動をしていましたか？

地域の小学校で健康教育を行ってきました。医療が充実していないぶん、子供の頃からの予防が大切と感じたため、小学校に交渉し健康教育をしていました。貧困地域にも巡回し、血圧測定や健康相談をし、病院受診を勧めました。地域ではバイク事故が多かったり、重症患者を受け入れる病院がありませんでした。蘇生率を高めるために、医療者や消防員、警察に対して、救命蘇生法の講習会を開催しました。また、地域で継続して救急法の講習会が行えるように、寄付を募って蘇生法の人形を購入しました。

Q4; 任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったことは、救急法の講習会時に消防士より、蘇生用のマスクがなく、困っているということを聞き、現地で調達できるように働きかけた。結局、現地調達ができず、日本の医療機器メーカーに問い合わせたところ、蘇生用マスクを無償で提供していただき、任地や他の医療隊員の任地に設置し、実際の蘇生や講習会に大いに役立つことができました。

辛かったことは、配属されて半年はとにかく辛かったです。自分のやるべきことや居場所が分からないこと、言葉ができないなど、全てが辛かったです。また、同僚と喧嘩したり、仕事に対する温度差が大きく、理解することができなかったことでした。

Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

私たちが出発してから2か月後に東日本大震災がありました。任地で何もできないことを悔しく思い、帰国後は被災地で復興支援をしたいとずっと考えていました。現在、復興庁に属して復興支援に携わっており、被災者と接する機会が多いです。辛いこともあります。来てよかったと思っています。今後は、海外での経験や被災地での経験を伝えていきたいと思っています。



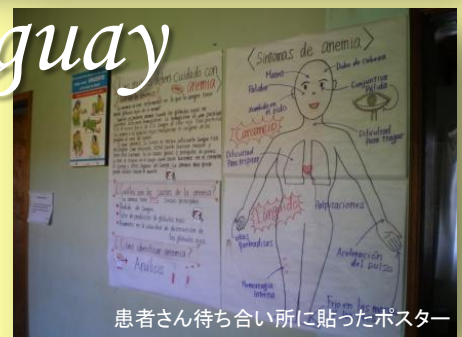
パラグアイの大豆畑



同僚たち



虫歯予防と歯磨きの授業



患者さん待ち合い所に貼ったポスター

Republic of Paraguay

渡辺 良子 Ms. Ryoko Watanabe, JV (OV)
(平成22年度2隊 / モロッコ王国 / 村落開発普及員)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

モロッコは近年TVや雑誌などでも多く取り上げられ日本人も多く訪れる観光立国としても有名ですが、観光地や都市部と比べると農村部はまだまだ貧しく、かなりの格差があります。私が配属されていた南部のグリッシュウルウィ村も国内でも貧しい地域に指定されており、夏は約50℃、冬は0℃にもなる環境でしたが、村人は皆気さくで親切な人達ばかりで、私も温かく迎えてもらえました。この村で過ごした2年半は本当にかけがえのないもので、村は私にとって第二の故郷と呼べる存在になりました。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

村の男性の多くは都市部に出稼ぎに行っており、残された女性や子供達は家畜を飼って農作物を収穫しながら自給自足に近い生活を送っていました。村人の生活は確かに質素で不便に感じる事もありましたが、自分で育てたものを必要な分だけ大切に食べる、今の日本ではしようと思っても簡単にできる生活ではありません。村で毎日頂いた自家製かまどで焼いたパン(小麦も自家製)は最高に美味しかったです。

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？

村役場と女性アソシエーションと協力し、生計向上を目指してエコツーリズムによる観光開発や伝統的な刺繍を活かした土産品開発、製作指導を行ないました。また、女性達自身で現金収入が得られるように、女性達と共同で販路開拓を行っていました。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

村人は皆フレンドリーな人達なのに、ルーツの違いなどから集落間での繋がりは希薄でしたが、私の活動を通じて女性アソシエーション同志の交流が生まれ、それをきっかけに村の集落代表者を集めて初めて会議を開くことが出来ました。そしてその会議で集落共同でのモロッコ南部最大の見本市ナツメヤシ祭りへの出展が決まり、みんなで出展することができました。私は単なるきっかけにすぎませんが、今後の村の発展には役場や集落間での連携は不可欠だと思うので、少しでも関われた事は嬉しかったです。また、近くの観光地であるトラ渓谷にある日本人宿で私の活動終了後も女性アソシエーションの商品を継続して置いてもらえる事になったことも嬉しかったです。辛かったことも沢山ありましたが、思い起こすといつも周りに助けられいつも楽しく過ごせたので、今となっては全てが良い思い出です。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

活動中、日本企業のモロッコ駐在員の内定をもらい、現在もモロッコで働いています。主に日本への民芸品の輸出、観光業に携わっています。自分自身、すっかり虜になり未だに住んでいるモロッコ(笑)。まだまだ馴染みのない人も多いと思うので、そんなモロッコの魅力をこれからも多くの人に伝えていきたいと考えています。そしてモロッコと日本の掛け橋になれば幸いです。また、活動していたアソシエーションも、今後も個人的に続けていきたいと思っています。



グリッシュウルウィ村



自家製かまどパン



皆で参加したナツメヤシ祭り

Kingdom of Morocco

県北からも、青年海外協力隊を
応援しています！

ケーブル・ハーネス加工、電装品・制御盤の組立



株式会社 興栄電機
KOUEI Electric Co., Ltd.

〒959-3121

新潟県村上市佐々木577

Tel. 0254-62-5653, Fax. 0254-62-5650

URL <http://www.koueielectric.jp>

電気が使える「あたりまえ」私たちが支えます。
電気工事、土木工事、とび土工、機械器具設置、
消防設備工事



胎内電建工業株式会社

〒959-2657

新潟県胎内市江上966

Tel. 0254-43-5345, Fax. 0254-43-5389

URL <http://tainaidenken.com>

私達は協力隊応援団です！
果物のことは大野青果に！



新潟市中央卸売市場

大野青果 株式会社

代表取締役 大野 修

〒950-0114

新潟県新潟市江南区茗荷谷711

Tel. 025-257-6220, Fax. 025-257-6219

- INFORMATION -

1. 平成25年度JICAボランティア秋募集のご案内

平成25年10月1日(火)～11月5日(火)の期間、青年海外協力隊(20-39歳)・シニア海外ボランティア(40-69歳)の志願者の募集が行われます。応募に関する詳細は、下記へご連絡またはJICA公式HPでご確認下さい。→ <http://www.jica.go.jp>

【お問い合わせ】 JICA新潟デスク・本田さん Tel. 025-290-5650 / Fax. 025-249-8122

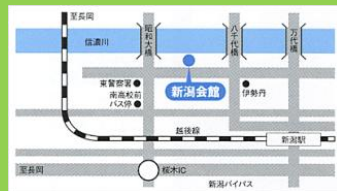
2. 平成25年度JICAボランティア留守家族連絡会のご案内

日時：平成25年10月26日(土)、13:00受付 13:30開会

会場：新潟会館(新潟市中央区幸西3-3-1 Tel.025-247-9307) →

内容：JICAボランティア事業の説明、帰国隊員報告会、等 懇親会(お一人4千円)

【お問い合わせ】 当会事務局まで(会員には後日ご案内を郵送) ※お問い合わせ可。



新潟会館HPより引用 (<http://www.niigata-kaikan.com>)

3. 「政府、海外スポーツ派遣を倍増へ ～途上国への青年協力隊～」

政府は2020年東京五輪に向け、発展途上国でスポーツ指導に当たる青年海外協力隊の「スポーツ隊員」を200人規模に倍増させる方針を固めた。日本の技術や知識を生かして途上国の人材育成を後押しすることで、スポーツを通じて若者を教育し平和な世界を目指す「五輪運動」への貢献をアピールする。政府関係者が14日、明らかにした。

安倍晋三首相が国際オリンピック委員会(IOC)総会で言及した国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー」の一環。10月1日から応募を受け付ける本年度秋の募集からスポーツ隊員の合格者を増やす。(平成25年9月15日 新潟日報朝刊)

新潟県から派遣される新隊員の壮行会および新潟に帰国した隊員の慰労会は年4回(3月、6月、9月、12月)開催。案内はMLで配信!



(新)平成24年度4次隊
(帰)平成22年度3次隊



(新)平成25年度1次隊
(帰)平成22年度4次隊

(写真：横山 容司郎)

協大賛募広集告

私達は新潟から青年海外協力隊を応援しています!
金属加工のことならABCにお任せ下さい

相場産業株式会社



〒955-0814

新潟県三条市金子新田1691-5

Tel. 0256-35-7460, Fax. 0256-35-7462

URL <http://www.abc-tool.co.jp>

壊れた自転車は、電話一本でOK!
出張修理専門

(新潟駅南地区限定)

動く自転車屋

森田 敏明

〒950-0941

新潟県新潟市中央区女池7-10-3

Mobile 090-9009-4709

URL <http://ugoku-jitensyaya.com>



感動と夢、そして感謝



21世紀の生涯学習を推進する

株式会社アルファブライト

〒950-2012

新潟県新潟市西区小針台1-15

Tel. 025-234-1000, Fax. 025-234-1002

URL <http://alpha-bright.co.jp>

青年海外協力隊サポーター

業務用食器・厨房用品・贈答用品



〒954-0046

新潟県見附市双葉町2-4

Tel. 0258-62-1265, Fax. 0258-62-7078

世界にはばたこう、日本の心!

そやま接骨院

院長 楚山 恭男

〒940-1165

新潟県長岡市水梨町1106-15

Tel. & Fax. 0258-22-3654

静かな森と美しい庭園

かん すい ろう

新潟五頭温泉郷

村杉温泉

環翠楼

〒959-1928

新潟県阿賀野市村杉温泉

Tel. 0250-66-2131

Fax. 0250-66-2553

URL <http://kansuirou.jp>



2014年版カレンダーを販売します!



●仕様： A4版フルカラー28頁、壁掛け型

●価格(単価)： 700円、3部以上で500円

※送料は当会負担

●購入方法： 当会事務局までお申し込み頂くか、直接お買い求めに来て頂きます。

詳しくは事務局(担当 渡辺)までEメール

が電話にてご連絡下さい。

本紙の編集で、7年後のオリンピック&パラリンピックの東京開催が決まりました。私は2009年9月に東京で開催されたアジア・ユース・パラゲーム(障がい者ユースのスポーツ大会)で、タイチームの通訳ボランティアをしたことを思い出しました。会場の一つだった国立競技場で、タイの陸上選手たちと感動を共有し、友情を築きました。いつかまたこの舞台上で彼らに会いたいと思ったその願いを、7年後の新生競技場で叶えられたらな～と思います。(พรกัญญา)